

平成27年11月16日（月）
愛知県産業労働部産業振興課
・自動車産業グループ
担当 山口、上田
内線 3465、3466
（ダイヤル）052-954-6376
・次世代産業室
次世代産業第二グループ
担当 木津、都筑
内線 3394、3395
（ダイヤル）052-954-6352

近未来技術実証プロジェクト報告会を開催します

自動走行技術や無人飛行ロボット、リハビリ支援ロボットなどの近未来技術の実証を行う取組が、平成27年8月28日に、本県の国家戦略特区の取組の一つとして指定されました。

その取組を加速化させるとともに、県民の機運を醸成することを目的に平成27年12月より3回連続で報告会を開催します。

1 報告会開催日程

	開催月	プロジェクト名
第1回	平成27年12月	自動走行実証プロジェクト
第2回	平成28年1月	無人飛行ロボット実証プロジェクト
第3回	平成28年2月	リハビリ遠隔医療・ロボット実証プロジェクト

2 各プロジェクト報告会の概要

(1) 自動走行実証プロジェクト

ア 日時 平成27年12月11日（金）午前10時から正午まで

イ 場所 愛知県産業労働センター 1103 会議室（名古屋市中村区名駅 4-4-38）

ウ 内容 講演

株式会社ZMP 代表取締役社長 たにぐちひさし 谷口 恒 氏

「ZMPの自動運転技術 ～安全で楽しく便利な社会を目指して～」(仮題)

取組報告

① 株式会社デンソー

「自動車安全技術プロジェクトチームメンバーの取組」

② 名古屋大学

「自動走行実証プロジェクトの取組」

エ 対象 一般県民、自動車産業関連企業等

(2) 無人飛行ロボット実証プロジェクト

ア 日時 平成28年1月26日（火）午前9時40分から正午まで

イ 場所 愛知県産業労働センター1102 会議室

ウ 内容 講演

株式会社プロドローン 代表取締役社長 ^{こうのまさかず} 河野雅一氏
「ドローンがもたらす新たな社会」(仮題)

取組報告

① キャリオ技研株式会社 代表取締役 ^{とみたしげる} 富田茂氏
「無人飛行ロボットを活用した消火活動等の取組」(仮題)

② アイサンテクノロジー株式会社 MMS 事業部部长 ^{さとうなおと} 佐藤直人氏
「自動走行車両用地図作成の取組」(仮題)

エ 対象 一般県民、ロボット産業関連企業等

(3) リハビリ遠隔医療・ロボット実証プロジェクト

ア 日時 平成 28 年 2 月 10 日 (水) 午後 2 時から午後 4 時 20 分まで

イ 場所 愛知県産業労働センター18 階 国際ビジネスセンターセミナールーム

ウ 内容 講演

藤田保健衛生大学 統括副学長 ^{さいとうえいいち} 才藤栄一氏
「リハビリロボットがもたらす未来」(仮題)

取組報告

① ブラザー工業株式会社 常務取締役執行役員 ^{さ さ き ちろう} 佐々木一郎氏
「リハビリ遠隔医療システムの取組」(仮題)

② トヨタ自動車株式会社 パートナーロボット部部长 ^{たまおきあきふみ} 玉置章文氏
「リハビリ支援ロボットの取組」(仮題)

エ 対象 一般県民、ロボット産業関連企業、医療・介護施設等

(4) 申込方法

ア 自動走行実証プロジェクト

ホームページに記載の方法でお申し込みください。

<http://www.pref.aichi.jp/0000088502.html>

イ 無人飛行ロボット実証プロジェクト 別途ご案内します。

ウ リハビリ遠隔医療・ロボット実証プロジェクト 別途ご案内します。

3 近未来技術実証プロジェクトについて

このプロジェクトは、国家戦略特区の枠組みを活用して、国内外の新技术(遠隔医療、遠隔教育、自動飛行、自動走行等)を大胆に実証するフィールドを確保し、新商品・新サービスに関するイノベーションを喚起する取組。

国において、「近未来技術実証特区におけるプロジェクト」として本年1月に公募。全国から33の自治体が提案し、本県を含む3つの自治体の提案が了承された。

国家戦略特区(近未来技術実証プロジェクト)の取組

平成 26 年 8 月に「国家戦略特別区域」、平成 27 年 2 月に「近未来技術実証特区」へ提案。
平成 27 年 3 月の「国家戦略特別区域諮問会議」にて了承され、8 月 28 日に区域指定された。

無人飛行ロボット実証プロジェクト

・無人飛行ロボット利用時の、電波法における周波数制限や、航空法における飛行高度制限等の規制緩和のもと、安全性を高める性能高度化実験を実施し、無人飛行ロボットを活用した火災消火活動や鳥獣害対策、自動走行車両用の地図作成など、利用可能性の拡大に向けた実証を行う。



性能高度化に向けた実証
実験のフィールド提供



消火活動用飛行ロボット



鳥獣害対策用飛行ロボット

リハビリ遠隔医療・ロボット実証プロジェクト

・医療機関と患者の居宅間を情報通信でつなぎ、医師の診療に基づくリハビリ遠隔医療の実証を行う。
・リハビリ支援ロボットの早期市場化を目指し、企業が行う臨床研究データを法に基づく治験データとして活用することができる実証を行う。

自動走行プロジェクト

・高齢社会や交通不便地域に対応する新サービスの創出、交通事故を始めとした交通課題の解決に向けて、道路交通法の規制を緩和し、無人走行車両を利用したタクシーの旅客サービスや無人配送サービスなどを目指した実証を行う。